

実績報告の
テーマごとに作成してください。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

園名	小金井公園ハイジ保育園
----	-------------

1. 活動のテーマ

<テーマ>

音と表現

<テーマの設定理由>

ごっこ遊びをしたり絵を描いたり、ダンスをするのが好きのため、「表現と音」というテーマにした。年長児がコンサートに行ってから楽器作りや音ということにもクラス全体が興味を強く持つようになった。

2. 活動スケジュール

2025年4月～2025年3月

- 4月・5月 みどりのプレイデー（運動会）に向けて、年少児ダンス、年中・年長児は音楽に合わせてパラバルーンを楽しむ。
- 5月22日 段ボールを太鼓に見立て、ラップの芯で段ボールを叩き、音を奏でる。その音に合わせて踊る。
- 6月7日 みどりのプレイデー（運動会）でダンスやパラバルーンを保護者に披露する。
- 6月25日 リズム運動の中で、鳴子を上や横に振り、音を鳴らしながら歩く。
- 9月17日 宮地楽器ホールのコンサートに行き、家庭にある物（フライパンやボウル、しゃもじ等）で演奏するところを鑑賞。（年長児のみ）
- 9月18日 廃材で手作り楽器を作る。（年長児のみ）
- 10月3日 廃材で手作り楽器を作る。（年少児・年中児）
- 11月27日 自分たちで衣装を作り、アイドルになって友だちの前で歌に合わせて踊る。自分たちで作った紙芝居（塔の上のラプンツェル）を友だちに披露。
- 2月21日 自分が奏でたい楽器を決め、ピアノ（人間っていいな）に合わせて合奏をする。楽器毎にリズムが決まっており、発表会での表現を楽しむ。

3. 探究活動の実践

<活動の内容>

- ・活動のために準備した素材や道具、環境の設定
- ・活動中の子供の姿・声、子供同士や教諭との関わり 等を記載ください。

鳴子：リズム運動で色々な楽器を使って運動を楽しむ中の一つに鳴子を取り入れた。歩きながら鳴子を横にしたり、万歳で鳴らしたり、下の方にしてみたりと歩きながら音を奏でるのを楽しんでいた。

カラーポリ袋：アイドルを披露する時に、カラーポリ袋で衣装（スカート）を作った。カラーポリ袋をはさみで切った後、シールやマスキングテープ・リボン等で装飾した。

光るクレヨン：自分たちで紙芝居を作った際、ペン以外にも光るクレヨンを用意した。光るクレヨンの説明をすると、「本当に違うのかなー」と言っていた。



・鳴子という楽器を知り、実際に自分で持って音を鳴らすことを楽しんでいた子どもたちが、コンサートに行き家庭にある物が楽器になるということに驚きを感じていた。年長児のみがコンサートに行ったが、その後手作り楽器を他学年に披露する機会があり、他学年の子どもも楽器や手作り楽器に興味を持っていた。空き箱に輪ゴムをつけギロのような楽器や飲み物が入っていた容器に細かい物を入れマラカスを作っていた。様々な廃材の中の一つに段ボール（テープを貼った状態）とラップの芯を用意すると、段ボールとラップの芯で太鼓を作り、音を鳴らしたり歌に合わせて叩いたり、その音に合わせて阿波踊りをする子もいた。1つの行事から、製作や遊びに発展しており、行事として終わるだけでなく、楽しみなことに広がったのは良かった。音や楽器に興味を持っていたので、2月の発表会では合奏を披露した。年少児は鈴・カスタネットから選んだ。年中児はタンバリン・トライアングルから選んだ。年長児はウッドブロック・トライアングルから選んだ。学年毎の楽器から、自分が奏でたい楽器を選ぶようにした。始めはリズムを合わせるよりもそれぞれの楽器がどのような音を奏でるのかから知れるようにし、段々と音にはリズムがあることを学んでいった。リズムを皆で合わせることにより、音楽が完成するを経験した。発表会で披露し、子どもたち一人ひとりの達成感や出来るようになった喜びを感じられた良い機会になった。

・ごっこ遊びや絵を描くことが好きな子どもたちが、普段から好きなキャラクターになりきっており、その延長線でアイドルの踊りを披露することになった。踊りたい歌を自分たちで決め、カラーポリ袋を使って衣装を作れることも喜んでいて、何色にしようかや装飾をどうしようかと創造性も育めたと思う。歌に合わせて踊ることで、表現力も磨かれていた。行事の中で他学年の子に披露したが、その後も他クラス（乳児）からアイドルに来て欲しいという要望があり、披露しに行くことがあった。アイドルを見た乳児が自分のクラスでアイドルになりきる様子が見られ、他のクラスにもアイドルが普及していき、他クラスの遊びの幅が広がっていった。披露した子達が楽しみ、その姿が輝いていたからこそ他の子もやりたいという意欲に繋がっていたように感じる。やりたいという気持ちを大切にしていきたいと思った。普段から絵を描くことを楽しんでおり、自分で絵本を作る子もいる。子どもたちと保育士で紙芝居の題材を決め、「塔の上のラプンツェル」となった。クラスにある絵本を元に絵を描き、ペン以外に光るクレヨンを使用した。普段使用しているクレヨンとの質感の違いを感じていた。他クラスの子の前で披露する際は、どの台詞を誰が言うか等相談しながら決め、それぞれ役割をしっかりと果たしていた。人前で披露することで、自分たちが完成させた物を認めてもらい喜びに繋がっていた。